

〔平成16年4月27日〜6月26日〕

これからの日本と台湾が見えてくる

4・27 「日本は中国を恐れていない」

日本の「恐共症」(中国恐怖症)は台湾で嘲笑の的だが、日本の対台湾窓口・交流協会の内田勝久台北事務所長は台南県内での講演で、「日本は中国を恐れておらず、台湾とは政府間で実質関係を維持している」と強調。

4・28 花博で台湾の展示館が金賞

四十カ国以上が出展する「浜名湖花博」で、台湾の展示館が金賞を受賞。同館は胡蝶蘭、文心蘭、開運竹、ユリなどを出展している。

4・30〜5・1 ヨットレースで親善交流

石垣港沖―基隆港の約二八〇キロを結び日台親善の国際ヨットレースが開催された。隔年開催で、今回が四回目。

4・30 呂副総統「日本で台湾関係法を」

呂秀蓮副総統は小林興起衆議院議員と会見し、日台関係の強化を訴え、「日本の国会は米国のように、台湾関係法の制定に努力してほしい」と伝えた。

5・12 日台友好議連が台湾支持要求

自民党の日本台湾友好議員連盟(小林興起会長)は政府に対し、台湾のWHO参加を支持するよう要求。また同連盟は、李登輝前総統の来日実現を目指す方針も明らかにした。

5・17 祖父の遺骨探しで呼びかけ

台湾生まれの日本人岡龍男氏が、昭和十四年に亡くなった祖父岡今吉氏の遺骨を探しに台北市を訪問。墓は明石総督と同じ板橋墓地にあったが、同墓地はすでにない。また、岡氏は今吉氏の告別式が行われた善導寺で法要を営んだ。同寺関係者はメディアを通じ、今吉氏に関する情報の提供を呼びかけた。

5・17 日本家屋の保存運動

産経新聞の報道によると、再開発予定の台北市錦安里に残る木造日本家屋十三棟を古跡として保存するよう、付近の住民が運動中。師範大の王順美助教も「自国の一部として台湾を統治した日本人の真剣な姿勢を知ることができ」と、古跡指定の意義を強調。

5・17 那覇で陳總統就任祝賀会

那覇市内で陳水扁總統就任祝賀会。県政財界の代表者ら約四百人が出席。稲嶺恵一知事もメッセージを寄せ、「再選を心から喜ぶ。台湾は県の観光、産業には重要な存在」と。

5・17 WHOでの日本の支持に感謝

ジュネーブで開幕したWHO年次総会で、台湾のオブザーバー参加申請は、今年も中国の圧力により反対多数で却下。しかし日本が初めて賛成票を投じたため、台湾外交部(外務省)は「不成功の中にも大きな前進」と感謝。もちろん中国政府は不快感を表明。

5・18 民主党に「日台安保経済研究会」

民主党の国会議員による「日本台湾安保経済研究会」が発足。会長に中津川博郷、幹事長に長島昭久、事務局長に大江康弘の各氏が就任。約三十名が参加した。中国の脅威を踏まえ、両国の関係強化、議員交流の促進を目指す。長島氏は「日華」ではなく「日台」のパイプを構築するとの画期的な発言も。

5・20 青田街の日本家屋を古跡指定

台北市は青田街にある三十五棟の木造日本家屋を鑑定し、建物、庭など保存状態の良い二棟を古跡に指定。この家屋群は主に台北帝大教授など教育関係者の住居として、大正から昭和初期にかけて建てられた。

5・19 石原都知事が台湾の敵に憤り

総統就任式典参加のため訪台した石原慎太郎都知事は、蘇貞昌・台北県長を訪問し、

「總統就任式典に合わせ、中国が台湾を威嚇する声明を発表したことに、日本国民も憤っている」と伝えた。石原知事はその後、李登輝前總統とも会見した。

5・20 就任演説で「価値同盟」強調

陳水扁總統は就任演説で、台湾の友邦として特に米国と日本を挙げ、台湾と自由、民主主義などの「価値同盟関係」にあると強調。

5・21 總統が最注目の石原都知事と会見

陳水扁總統は石原都知事と会見し、前回に続く同知事の總統就任式出席に感謝した。石原知事は自前の憲法を作ろうとする陳總統に敬意を表した。就任式に出席した外国の要人中、最も注目を浴びたのが石原知事だった。

5・21 總統の娘夫妻が四度目の日本旅行

陳水扁總統の長女の陳好好さん夫妻が休暇で大阪に。夫妻の日本旅行は一昨年の新婚旅行以来、今回ですでに四回目。

5・24 東大に台湾法律研究講座

東京大学は台湾の富邦文教基金会の協力で「台湾法律研究講座」を開設。来春の開設後は戦前戦後の台湾の法律文化などを研究する。開設調印式で佐々木毅学長は「日台の學術交流拡大に全力を尽くす」と語った。羅福

全駐日代表は「多くの台湾人が学んだ東大の発展は台湾の人材育成の縮図。台湾近代化の軌跡が解明されることを希望する」と述べた。

5・25 新幹線第一号列車が台湾に到着

日本で「のぞみ」をベースに製作された台湾新幹線の第一号列車が高雄港に到着。九月から高雄—台南間で試運転を開始する。

5・27 「日本はリーダーたれ」と羅代表

羅福全駐日代表は都内で講演を行い、「アジアの安全に日米同盟は重要。日本は受動外交の殻を破り、アジアのリーダーとして積極的に責任を担ってほしい」と述べた。

5・29 八田技師の胸像が台湾から

戦前、台湾南部で嘉南大圳を作った八田與一技師の胸像除幕式が、同技師の故郷金沢市の「ふるさと偉人館」で行われた。台湾の許文龍・奇美実業会長が同市に寄贈した。

6・1 屏東に福田繁雄氏のマグロ像

黒マグロの産地として知られる屏東県東港の芸術公園で、グラフィック界の巨匠福田繁雄氏による黒マグロの彫刻の除幕式が盛大に。同県は黒マグロで観光誘致を推進中。

6・2 台北—広島に定期航空路線

中華航空が新設した台北—広島定期航空路

線が営業を開始。第一便で来日した亜東関係協会の許水徳会長は、姉妹都市関係の締結や修学旅行などの交流活動に期待を示した。

6・2〜3 日台NGOフォーラムが開催

海外での人道支援で実績のある日本のNGOとの協力強化のため、台湾外交部は台北市内で第二回日台NGOフォーラムを開催。治療を要するイラクの子供達を台湾の病院で受け入れる協力案も提示。

6・5 台湾の人気ドラマが日本上陸

東京MXテレビが、台湾で大人気の恋愛ドラマ「ラベンダー」（原題・薰衣草）の放映を開始。同局は韓国ドラマブームの火付け役。視聴者の「台湾」への反応が注目される。

6・7 日本からの輸入額が急増

台湾財政部（財務省）の発表では、五月の輸出入額はともに単月として過去最高。輸入では電子関連に加え、新幹線車両の輸入が始まった日本からが前月比五〇・三％増の三十三億四千八百八十万ドル。

6・7 昭和天皇の御召列車が公開

大正十二年の皇太子殿下（後の昭和天皇）の台湾行啓で（おびき）使用された御召列車が一般公開。内部に施された彫刻の豪華さなどに、鉄道管

理局は「金では買えない宝物」と強調。将来は鉄道博物館を開設して展示する計画も。

6・7 日本時代の工場が国指定古跡に

高雄市の市指定古跡だった日本時代の台湾煉瓦株式会社（な）の工場が、同市初の国指定古跡に昇格した。島内が建設ブームに沸いていた大正二年（一九一三年）に建設された。

6・8 王俠軍ガラスアート展が開幕

現代ガラスアートの世界的作家、王俠軍氏の作品展が、都内の上野の森美術館で開幕。書道、仏教などをモチーフとした、王氏の代表的作品を多数展示。

6・13 新駐日副代表が意気込み表明

駐日副代表への就任が内定し、年末の選挙戦から離脱する台湾團結聯盟の陳鴻基（と）副幹事長は、「政党より国家が大事」と意気込みを表明。陳氏は台日国会議員聯誼会の幹事長。

6・15 来日観光客数で台湾は二位

平成十五年度の観光白書によれば、同年度に来日した外国人観光客は、過去最高の五百三十四万人。国別で台湾は七十九万人で、韓国について第二位。

6・16 ダイエーの始球式に民視社長、台湾のテレビ局「民視」の陳剛信社長が、

福岡ドーム球場で行われたダイエー近鉄戦の始球式に登場。同局は二年前からダイエーの公式戦を週一回放映しているが、視聴率は良好で、ダイエーファンも急増中だ。

6・18 「日本時代展」を提案

陳其南・文化建設委員会主任委員（閣僚）は交流協会の内田勝久台北事務所長と会見し、日本時代の文物展の日台共催を提案。台湾の学界では当時の近代化の歴史に関心が高まり始めているという。

6・18 林明日香さんが李登輝氏を訪問

『武士道』解題などで李登輝前総統の大ファンになった歌手の林明日香さんが渡台し、李氏と面会した。歌を披露した林さんに、李氏は「あなたの声は天性のもの」と絶賛。林さんは今年十五歳で、台湾でも人気がある。

6・18 台湾大地震の被災地から神戸視察

台湾大地震の被災地、彰化県の翁金珠県長らが、阪神淡路大震災の被災地、神戸市の震災復興状況を視察。住民とも親睦を深めた。

6・19 台湾産マンゴーが大量出荷へ

台南県左鎮郷に日本企業出資のマンゴー蒸気熱処理工場が完成。すでに日本から一四〇〇トンのマンゴーを受注しており、七月には

出荷される。これまで日本で毎年消費される台湾産は一〇〇トンにも満たなかった。

6・19 総統夫人が観光で来日

総統夫人の呉淑珍さんが、東京と北海道の観光で来日。VIP待遇で通関後、都内で買物を楽しんだ。宿泊のホテルは中国大使館に近く、警視庁は厳重警備。

6・22 羅代表のパーティーに森前首相ら

羅福全駐日代表は離任に先立ち、都内のホテルで感謝のパーティーを開催。森喜朗前首相、福田康夫前官房長官ら元閣僚や議員などを含む、およそ四百人が出席。

6・24 台湾トップモデルが親善大使

国土交通省が観光客倍増のため推進中の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」で、台湾のトップモデル林志玲さんが親善大使に。林さんは東京での語学留学の経験がある。

6・26 「天皇献上」の台湾産コーヒー豆

フジサンケイ・ビジネスアイの報道によれば、台湾産コーヒー豆が近く商品化され、日本市場へ進出の見通し。なかでも雲林県古坑のコーヒー豆は日本時代の「天皇献上品」で、日本への「切り札」になる可能性も。

【永山英樹】